

神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校 いじめ防止基本方針

神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校
令和３年９月改定

1 いじめの防止等に関する基本的な考え方

「いじめ」とは、生徒等に対して、一定の人間関係にある他の生徒等が行う（当該生徒等と同じ学校に在籍していない場合も含む）心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった生徒等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

また、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた生徒の立場に立つことが必要です。

（本校のいじめ防止に関する基本的な姿勢）

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものです。

したがって本校では、学校教育目標に掲げる社会の次世代のリーダーとなる人材育成のために、すべての生徒がいじめを行わず、ほかの生徒に対して行われるいじめを認識しながら放置することが無いよう、いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する生徒の理解を深めることを旨として、いじめの防止等のための対策を行います。

また、家庭や地域、関係機関との連携を大事にし、生徒が多くの人々と関わり、多くの目で見守られるよう学校を中心としたコミュニティ作りに努めます。

（いじめの禁止）

教育活動全般を通じて、本校生徒へ「いじめやいじめに類する行為を行ってはならない。」ということを周知し、いじめ防止を徹底するよう指導していきます。

（学校及び職員の責務）

いじめが行われず、すべての生徒が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者、地域住民他関係者との連携を図りながら、学校全体でいじめの防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適切かつ迅速にこれに対処し、再発防止に努めます。

2 いじめの防止等に関する本校の取り組み内容

（１）いじめの未然防止のための取り組み

- ・未然防止の基本として、生徒が周囲の友人や教職員と信頼できる関係を作り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団作り、学校づくりを行っていきます。
- ・生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通うコミュニケーション能力の素地を養うため、すべての教育活動を通じてその充実を図ります。
- ・生徒が安心でき、自己有用感や充実感を感じられる学校生活づくりに努めます。
- ・いじめの背景にあるストレスなどの要因に着目し、その改善を図り、ストレスに適切に対処できる力の育成に努めます。

- ・ いじめは決して許されないという共通認識に立ち、全職員がいじめの態様や特質等について校内研修や職員会議を通して共通理解を図り、組織的に対応します。
- ・ 生徒の少しの変化も見逃さず、見守っていくために、職員相互が積極的に情報交換を行うとともに、校務の効率化をはかり、生徒とかかわる時間を多くするように努めます。
- ・ 地域、家庭と協力した啓発活動を進めます。

(2) いじめの早期発見のための取組み

- ・ いじめへの迅速な対処の前提として、すべての職員が連携し、生徒の些細な変化を逃さないように努めます。そして、いじめの疑いやいじめを早期に発見するため、また、生徒が訴えやすいように心掛け、定期的な調査を行います。

調査	対象と実施時期	担当
学校生活アンケート調査	生徒を対象 年2回（7月、11月）	いじめ防止推進委員 安全グループ
個人面談及び教育相談の際の聴き取り調査	生徒や保護者を対象 年2回（4月、11月 ※3年生は7月）	学級担任による

- ・ 生徒及び保護者がいじめに係る相談が行うことができるよう、「SNS いじめ相談@かながわ」や「24 時間子ども SOS ダイアル」等の相談窓口の周知に努めると共に、校内においても①スクールカウンセラーの活用、②いじめ相談窓口の設置等の相談体制を整備し、人権相談窓口等の他の相談体制との連携を図ります。
- ・ いじめの疑いや相談、通報のあった事案は、「いじめ防止推進委員会」を通して情報共有に努めます。
- ・ いじめの防止等のための対策に関する実践的な研修を実施し、いじめの防止等に関する職員の資質向上を図ります。

(3) いじめの早期解決のための取組み

- ・ いじめを見た、またはその疑いがある行為を見た場合は、すぐにいじめをやめさせます。
- ・ いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無を確認し、いじめに係る情報については適切に記録します。
- ・ いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた生徒・保護者に対する支援と、いじめを行った生徒への指導とその保護者への助言を継続的に行います。
- ・ 事実が確認できず、いじめの疑いがある場合においても、その疑いが解消に至るまで、生徒を見守り続け、保護者と共に連携しながら、安全・安心な学校生活が送れるよう支援と指導を継続的に行います。
- ・ いじめを受けた生徒が安心して学習するために必要があると認められるときは、保護者と連携を図りながら、いじめた生徒に対し、一定期間別室等において学習を行わせる措置を講じます。
- ・ いじめを見ていた生徒等にも自分の問題として捉えさせ、誰かに知らせる勇気を持つよう、また、同調している生徒に対しても、それらの行為がいじめに加担する行為であることを理解させるよう指導します。
- ・ いじめの当事者間における争いを生じさせないよう、いじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するために必要な措置を講じます。

- ・ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、県教育委員会及び所轄警察署等と連携して対処します。

（４）インターネット上のいじめへの対応

発信された情報が急速に広がってしまうこと、発信者の匿名性、その他のインターネットを通じて発信される情報の特性をふまえて、インターネットを通じて行われるいじめの防止に努め、生徒及び保護者が効果的に対処できるように、企業やＮＰＯ等との連携による携帯電話教室や講演会の設定など必要な情報提供・啓発活動を行います。

（５）いじめの再発防止のための取組み

- ・ いじめに係る行為が最低３か月止んでおり、いじめを受けた生徒が心身の苦痛を感じることがなくなって、いじめが解消したと判断した場合においても、再発防止に向けて、生徒を見守り続け、教育活動全般を通して継続的に指導していきます。
- ・ いじめを隠蔽せず、いじめの実態把握及び適切な措置を行うため、「いじめ防止基本方針」に基づく取組み状況を「いじめ防止推進委員会」に置いて、定期的に点検し、「いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくり」の適正な評価に努めます。

３ 「いじめ防止推進委員会」の設置

いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため「いじめ防止推進委員会」を設置し、学期に１回程度開催します。

また、いじめと疑われる相談・通報があった場合には、会議を緊急開催します。

（１）「いじめ防止推進委員会」の構成

教頭、安全グループ担当者、学年いじめ防止推進委員、学年生徒指導担当者・教育相談担当者、教育相談コーディネーター、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等

※ 検討事項や事案内容に応じて、依頼可能な第三者の参加を柔軟に検討し、校長が任命します。

（２）活動内容

- ・ いじめ防止等の取組内容の検討、基本方針・年間計画作成・実行・検証・点検・修正
- ・ いじめ及びいじめ疑いに関する相談・通報への対応
- ・ いじめ及びいじめ疑いの判断と情報収集
- ・ いじめ及びいじめ疑い事案への対応検討・決定
- ・ いじめ及びいじめ疑い事案の報告
- ・ いじめに係る実践的な教職員研修などの企画立案

４ 重大事態への対処

いじめにより、生徒の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた場合や、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている等の疑いがある場合は、県教育委員会を通じて知事に報告し、県教育委員会と協議の上、「いじめ問題対策委員会」を設置し、「いじめの重大事

態の調査に関するガイドライン（平成 29 年 3 月文部科学省）」に基づき、迅速に調査に着手します。

（１）「いじめ問題対策委員会」の構成

- ・ 管理職、安全グループリーダー、安全グループ員、生徒指導委員（学年リーダー含む）、学年いじめ防止推進委員、学年生徒指導担当者・教育相談担当者等
- ※ 事案内容により構成員については県教育委員会と検討し、校長が任命します。
- ※ 構成員については、専門的知識及び経験を有する者等の第三者の参加を図り、当該調査の公平性・中立性を確保するよう努めます。

（２）活動内容

- ・ 発生した重大事態のいじめ事案に関する調査
- ・ 調査によって明らかになった事実関係について、いじめを受けた生徒やその保護者に対して、適時、適切な方法での提供、説明、神奈川県教育委員会への調査結果報告
- ・ 調査結果の説明について、いじめを受けた生徒又はその保護者が希望する場合は、所見をまとめた文書を添えて、調査結果の報告を提出